

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
1 基本的な生活習慣を身につけ、自己研鑽に努め、宗教心の薫育、奉仕活動への参加を促す。	① 基本的な生活習慣の定着を目指す。	総務 教務 生徒指導	基本的な生活習慣が A 十分定着している 64% B まあまあ定着している 32% C あまり定着していない 3% D 定着していない 1%	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。 A・B:96% C・D: 4%	※学校生活に関するアンケート・8(1)(2)(3)を統合 高校は最終教育機関であり、本校が周囲から期待されているところとして、生徒への働きかけとともに、教師側の意識を上げていく必要がある。
	② 生徒の読書意欲を高め図書館の貸出冊数を増加させる。	図書館 総務	全校生徒中、貸出者数の割合が A 30%以上 B 30~20% C 20~10% D 10%未満	D判定は意欲を促進する内容と活動を検討する。	
	③ 本校の柱である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年	上山研修は A 十分満足できた B だいたい満足している C あまり満足していない D よく分からない	C・D評価が15%以上において内容を検討する。	
	④ 宗教の授業や行事(花祭り、報恩講)を通して、自己の内面を省みることを目標とする。	宗教科	宗教教育で自分の生き方を考えることが A 非常によくできた B まあまあできた C あまりできなかった D 全然できなかった	C・D評価が15%以上において内容を検討する。	
	⑤ 各種ボランティア活動に積極的に参加し、奉仕の精神を育成する。	総務(管理) 生徒会 ボランティア	ボランティア活動に参加した回数 A 年間3回以上 B 年間2回 C 年間1回 D 年間0回	C・D判定が25%以上において内容を検討する。	
1 学校関係者評価委員会の評価					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
2 基礎学力の向上とともに学習意欲の涵養に努める。特に進路に対する個人指導を重視し、新たな自己の才能の伸長を促す。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教務(研修) 教科	分かりやすさを実感している生徒の割合 A 大変工夫されていると感じる 23% B まあまあ工夫されていると感じる 64% C あまり工夫されていると感じない 11% D 全く工夫されていると感じない 2%	C・D評価が25%以上 において教務課を中心に改善策を検討する。 A・B:87% C・D:13%	※学校生活に関するアンケート・3 今年度より各々の授業において各学期末に、授業に関するアンケートを生徒に対して実施し、その評価結果を授業担当者が各自の授業に生かしている。また、教師相互の授業見学も実施し、互いに刺激を受けるようにしている。
	② 基礎学力の確認、向上とともに学習習慣を身につけさせる。	教務 教科	確認テストを達成している生徒の割合 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C・D判定においては実施内容・指導方法を検討する。	
	③ 普通科の情報ビジネス、福祉ボランティア、進学、特進の各コースと体育科の特色が顕在化するように研究と指導に励む。	教務 各コース	取り組みについての生徒の自己評価 A 意欲的に取り組むことができた 19% B まあまあ取り組むことができた 66% C あまり意欲的に取り組めなかった 13% D 全く意欲的に取り組めなかった 2%	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。 A・B:85% C・D:15%	※学校生活に関するアンケート・2 アンケート結果の数値から、2-①「授業の分かりやすさ」との因果関係が認められる。今後も授業の工夫に取り組み、生徒の意欲を高めていきたい。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進学 就職	進路選択に A 非常に役立った B まあまあ役立った C あまり役立たなかった D 全然役立たなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	
	⑤ 生徒、保護者の志望を把握し、きめ細かなガイダンスを実施し、個人面談・家庭訪問を行う。	教務 学年	保護者が希望する面談回数 A 年3回以上 21% B 年2回(現状維持) 74% C 年1回 1% D 少なくともよい 0%	A・C・Dのいずれかの 回答が25%以上の 場合、面談の回数・ あり方を検討する。 B:74%	※PTA総会保護者アンケート・6 現状の2回という回答が多数だが、特進コースの保護者を中心に、進路相談のために3回にしてほしいとの回答が増えているので、今後検討していく。
2 学校関係者評価委員会の評価					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
3 地域社会に根差した学校を目指し、生徒指導の充実を図るため、教職員間(担任・教科・部顧問)及び保護者、地域住民との連携「報・連・相」を徹底する。	① 地域交流及び教育活動の一環として、「谷ふれあいレクリエーション」を開催し、生徒はボランティア活動として主体的に参加する。	総務 保健体育 生徒会 PTA	地域に A よく貢献した B まあまあ貢献した C あまり貢献しなかった D 全く貢献しなかった	C・D評価が25%以上 において内容を検討する。	
	② 学校周辺町内の全校生徒による清掃作業。 「わが町美化ピカ隊」への参加	総務(管理) 全学年 (PTA)	清掃活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた 26% B ある程度取り組むことができた 52% C あまり取り組むことができなかった 13% D 全然取り組めなかった 9%	C・D評価が30%以上 において内容を検討する。 A・B:78% C・D:22%	※学校生活に関するアンケート・7 「わが町美化ピカ隊」の活動も5年目に入り、ある程度定着してきた。今後は協定通り、年3回の実施をしていきたい。今年度の1回目は、事情により1年生は校舎敷地の清掃となったので、3学期2回目はしっかりした活動としたい。
	③ 交通マナー向上のための活動に努力する。	生徒指導 生徒会	交通マナーについての生徒の自己評価は A よく守っている 60% B まあまあ守っている 37% C あまり守っていない 2% D 全く守っていない 1%	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化する。 A・B:97% C・D:3%	※学校生活に関するアンケート・8(4) 夕方下校時の蛍光タスキ、雨天時のカッパの着用の取り組みが不徹底である。一つ一つ改善していく教師側の姿勢を大切にしたい。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の対応に万全を期す。AED講習会も開催している。(AED2台の設置) 「三大訓練の実施」	総務 保健体育 生徒指導	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行った B 年間2回行った C 年間1回行った D 全く行わなかった	C・Dにおいては日程・内容を検討する。	
	⑤ 学校行事を通して、PTAとの連携を図り生徒たちの学校生活を見てもらう。	総務 生徒会	学校と保護者の連携が A かなり深まった B まあまあ深まった C あまり深まらなかった D 全く深まらなかった	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討する。	
3 学校関係者評価委員会の評価					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
4 生徒会活動、部活動への参加意識を高め、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を目指す。	① 新入生の部活動全入部体制と活動内容の充実・向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	部活動に満足している A かなり満足している 37% B まあまあ満足している 45% C あまり満足していない 8% D 全く満足していない 3%	C・D評価が10%以上 において指導体制を検討する。 A・B: 82% C・D: 11%	※学校生活に関するアンケート・4 所属しているが、参加していない:2% 所属していない:5% 部顧問がH担任と連携をとり、C・D対象者への意識調査や指導の工夫を図る。無所属者へは学年からの指導を継続して行う。
	② 生徒が主体となる委員会活動 球技大会・体育祭・文化祭 等を活性化させる。	生徒会 学年	生徒会活動について A よく活動している 37% B まあまあ活動している 52% C あまり活動しているとは思わない 8% D 活動しているとは思わない 3%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方を検討する。 A・B: 89% C・D: 11%	※学校生活に関するアンケート・5 生徒の主体性を尊重する活動内容を担当者は常に意識している。今後も、生徒の思いを具現化できるよう補佐、指導していく。
	③ GS隊による挨拶・交通安全活動	生徒会	GS隊活動についての生徒の自己評価は A 積極的に取り組むことができた 27% B ある程度取り組むことができた 46% C あまり取り組むことができなかった19% D 全然取り組めなかった 8%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方を検討する。 A・B: 73% C・D: 27%	※学校生活に関するアンケート・6 行事や天候に左右され、生徒会全体として取り組む意欲を保持しにくい、委員会顧問や当番教師の協力のもと行っていく。
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と 健やかな人間形成に役立つ。	生徒会 国語科	豊かな心を育てるのに A かなり役立った B まあまあ役立った C あまり役立たなかった D 全く役立たなかった	C・D評価が25%以上 において活動のあり方を検討する。	
4 学校関係者評価委員会の評価					